

平成26年11月 東京地区百貨店売上高概況

平成26年12月19日

I. 概況

1. 売上高総額	1,459億円余
2. 前年同月比	0.3% (2か月ぶりプラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭0.8%(89.9%) : 非店頭-4.1%(10.1%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成26年10月対比±0店)
5. 総店舗面積	854,956㎡ (前年同月比:-2.4%)
6. 総従業員数	19,152人 (前年同月比:-0.7%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	4-6月 -6.3%、5-7月 -3.2%、6-8月 -1.6%、 7-9月 0.0%、8-10月 0.5%、9-11月 0.2%

[参考] 平成25年11月の売上高増減率は3.9% (店舗数調整後)

【11月売上の特徴】

- (1) 東京地区の入店客数は、休日日数の増加や各店の営業努力などを背景に、前年実績を1%程度上回る水準で推移した。
- (2) ファッション分野では、高めの気温を背景に、婦人コート等の防寒衣料が不振(衣料品:-2.4%)だった半面、紳士服(+2.5%)と子供服(+2.9%)は5か月連続で前年クリアした。また、ハンドバッグやアクセサリ等の身のまわり品(+3.9%)も、付加価値志向の高まりで、ラグジュアリーブランド中心に好調を維持し5か月連続プラスとなる一方、雑貨(+5.1%)と食料品(+0.2%)もそれぞれプラスを確保した。
- (3) なお、化粧品については前月に続き、インバウンド効果を活かして二桁増を確保する一方、美術・宝飾・貴金属(+3.3%)が、消費税率引き上げ後初めて前年実績をクリアするなど、高級時計などを中心に、全国に先駆けて復調の兆しを見せている。
- (4) 季節商材のクリスマスケーキ、おせち、歳暮の受注状況については、いずれもほぼ前年並みで推移した。なお、歳暮の動きでは、ネット受注のシェアが高まると共に、ご自宅用に購入(自家需要)するケースも増加している。
- (5) 東京地区の12月中間段階(12月15日)までの商況は、前年同期比で日曜日が1日少ないこともあって、概ね前年比2%のマイナスで推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 11店、②変化なし: 5店、③減少した: 3店
- (3) 11月歳時記(文化の日、勤労感謝の日、七五三、歳暮)の売上(同上/有効回答数9店舗)
①増加した: 3店、②変化なし: 4店、③減少した: 2店

東京地区百貨店 売上高速報 2014年11月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	145,920,910	100.0	0.3
紳士服・洋品	13,682,053	9.4	2.5
婦人服・洋品	27,541,405	18.9	-4.6
子供服・洋品	2,307,150	1.6	2.9
その他衣料品	2,677,492	1.8	-7.9
衣 料 品	46,208,100	31.7	-2.4
身のまわり品	18,794,269	12.9	3.9
化粧品	8,849,745	6.1	11.3
美術・宝飾・貴金属	8,912,038	6.1	3.3
その他雑貨	6,496,788	4.5	-0.1
雑 貨	24,258,571	16.6	5.1
家 具	1,672,735	1.1	-7.7
家 電	1,461,590	1.0	-20.9
その他家庭用品	4,961,478	3.4	5.0
家 庭 用 品	8,095,803	5.5	-3.4
生 鮮 食 品	6,640,530	4.6	-2.2
菓 子	9,997,486	6.9	0.3
惣 菜	8,022,635	5.5	-1.6
その他食料品	14,881,441	10.2	2.1
食 料 品	39,542,092	27.1	0.2
食 堂 喫 茶	3,143,518	2.2	0.2
サ ー ビ ス	2,470,734	1.7	6.5
そ の 他	3,407,823	2.3	-5.6

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	4,704,291 千円	-3.3
従 業 員 数	19,152 人	-0.7
店 舗 面 積	854,956 m ²	-2.4

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品が5か月連続、雑貨が2か月連続、食料品が3か月ぶりのプラスとなった。また、衣料品が2か月連続、家庭用品が2か月ぶりのマイナスとなった。紳士服・洋品、子供服・洋品、化粧品が5か月連続、菓子が4か月連続、美術・宝飾・貴金属、その他食料品が8か月ぶり、その他家庭用品が2か月ぶりのプラスとなった。その他では、その他雑貨と生鮮食品が先月より改善をみせた。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	0.3	—	2か月ぶりプラス
紳士服・洋品	2.5	0.2	5か月連続プラス
婦人服・洋品	-4.6	-0.9	2か月連続マイナス
子供服・洋品	2.9	0.0	5か月連続プラス
その他衣料品	-7.9	-0.2	3か月連続マイナス
衣料品	-2.4	-0.8	2か月連続マイナス
身のまわり品	3.9	0.5	5か月連続プラス
化粧品	11.3	0.6	5か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	3.3	0.2	8か月ぶりプラス*
その他雑貨	-0.1	0.0	3か月連続マイナス*
雑貨	5.1	0.8	2か月連続プラス
家具	-7.7	-0.1	8か月連続マイナス
家電	-20.9	-0.3	2か月ぶりマイナス
その他家庭用品	5.0	0.2	2か月ぶりプラス
家庭用品	-3.4	-0.2	2か月ぶりマイナス
生鮮食品	-2.2	-0.1	8か月連続マイナス*
菓子	0.3	0.0	4か月連続プラス*
惣菜	-1.6	-0.1	4か月ぶりマイナス*
その他食料品	2.1	0.2	8か月ぶりプラス*
食料品	0.2	0.0	3か月ぶりプラス
食堂喫茶	0.2	0.0	8か月ぶりプラス
サービス	6.5	0.1	3か月ぶりプラス
その他	-5.6	-0.1	4か月連続マイナス
商品券	-3.3	-0.1	3か月ぶりマイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・西田まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>